

農作物生育・技術情報10号

日高農業改良普及センター日高西部支所
JAびらとり JA門別町

1 水 稲

○収穫後のほ場管理

(1) 稲わらの処理

稲わらは、ほ場に放置せず速やかに搬出する。

いもち病が発生した水田の稲わらは、ほ場周辺に放置せず搬出してほ場や育苗ハウスから離れた場所に堆積して堆肥化させる。

(2) 透排水性の改善

溝切りで表面排水を促し、水田の乾燥に努める。

必要に応じ、サブソイラーで透水性を促す。

秋起こしは、天候の良い日に水田の乾燥状態を確認してから行う。

(3) 畦などの確認

畦の補修や排水溝の掃除を行い、機能を回復させる。

(4) 土壌診断の実施

低タンパク米生産のためにも、3～4年に1度は土壌診断を行い、収量・地力に合わせた施肥設計を行う。

2 主要野菜

| 作物名 | 生育状況 | 技術対策 |
|---------------------|--|---|
| トマト | <ul style="list-style-type: none"> ・5月定植で9～10段収穫中。 ・6月定植で7～8段収穫中。 ・灰色かび病、うどんこ病、葉かび病、ハモグリバエ類、オンシツコナジラミが見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・病害葉の摘葉等を行う。 ・夜温13℃を目安に内張りカーテン等の利用で保温する。 |
| ゆず軟白ねぎ | <ul style="list-style-type: none"> ・6月定植収穫中。 ・タマネギバエ類、ハモグリバエ類、アザミウマ類の発生が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・土壌病害虫が発生したほ場は計画的に土壌消毒を行う。 |
| アスパラガス (ハウス立茎) | <ul style="list-style-type: none"> ・灰色かび病、斑点病が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・茎葉が80%以上黄化し、地際部の茎の中がストロー状になったのを確認してから刈り取る。 |
| きゅうり (ちなつ、オーシャン) | <ul style="list-style-type: none"> ・生育は順調で、中～上段位の孫づるの収穫が進んでいる。 ・ワタヘリクロノメイガ、うどんこ病・べと病の発生が一部のほ場で見受けられる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・うどんこ病、べと病の防除には、予防効果の高い薬剤と、治療効果を伴う薬剤を使い分け、防除効果を高める。 ・気温の低下が予想される場合は夜温13℃を目安に内張りカーテン等で保温する。 |

3 畜産

(1) 牧草の最終刈り取り

牧草の越冬のため、牧草に十分な再生量と貯蔵養分を蓄えさせましょう。

- ①「刈取り危険帯」の刈取りを避けましょう。
- ②最終刈り取りから、平均気温が5℃以下になるまで（平年で11月10日頃）の生育期間を約40日以上確保しましょう（ペレニアルライグラスの場合は30日以上）。

| 刈取り危険帯 | |
|------------|------------|
| アルファルファ | 9月下旬～10月中旬 |
| オーチャードグラス | 10月中旬～下旬 |
| ペレニアルライグラス | 10月中旬～下旬 |

*危険帯を避けるため、なるべく10月は刈取りを行わないようにしましょう（放牧地・新播の掃除刈り等）

(2) ギシギシの雑草処理

ギシギシの秋処理に利用できる薬剤と使用方法

| 薬剤名 | 使用時期・濃度 | 注意事項 |
|------------------|--|---|
| アージラン液剤 | 10月上旬～10月中旬 300ml～400ml/10a (水100ℓ/10a) ギシギシ類の栄養成長期 | <ul style="list-style-type: none"> ・経年草地で最終採草後に行う ・秋散布では散布当年は黄化するのみで、翌春に枯死する ・散布後14日間は放牧は行わない |
| ハーモニー75DF 水和剤 | 秋処理（おおむね10月 末まで） 3g/10a（水100ℓ/10a） ギシギシ類の葉が展葉し、 ギシギシの草丈が20cm以下 | <ul style="list-style-type: none"> ・クローバーに対する薬害が著しい ・散布後21日間は放牧、採草は行わない ・他の作物に薬害を生じやすいので、散布に用いた器具類は専用の洗浄剤でよく洗浄する ・夏以降には播種した新播草地には使用不可 |
| バンベルーD 液剤 | 秋期牧草最終刈り取り 後30日以内 75～100ml（水100ℓ/10a） | <ul style="list-style-type: none"> ・マメ科牧草に薬害が生じる ・秋散布した牧草は当年度は放牧しない ・新播草地は使用不可 |

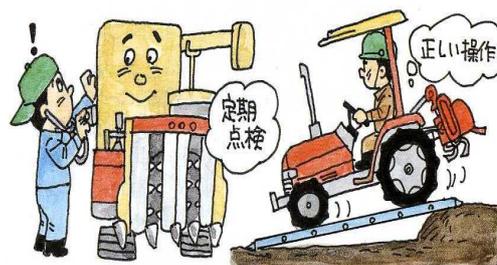
<注意事項>

- ・生育ステージが進むほど、また気温は低くなるほど効果は弱くなります。

4 農作業安全対策

【農作業安全の実践・確認項目】

- 休憩を取り無理のない作業
- 農作業や機械作業に適した服装
- 点検・整備は、必ずエンジン停止
- 油断せず後方確認、足下注意
- 農道の走行時は路肩の状況を確認



秋の農作業安全運動期間です。ゆとりを持った作業を実施しましょう！